

平成25年度 市長と語る市政懇談会 佐久島地区 会議録

日 時 平成25年8月29日（木） 午後2時30分～4時10分
場 所 佐久島開発総合センター（集会室）
出席者 町内会長始め団体の代表者15名、自由参加12名
市議会議員
高須一弘議員、前田 修議員、徳倉正美議員、松井晋一郎議員、本郷照代議員
市 側
市長、神谷副市長、小島副市長、教育長、企画部長、福祉部長、
地域振興部長、消防長、佐久島振興課長
進 行 藤井善勝 代表町内会長
提言件数 6件 自由意見 3件

【市長あいさつ】

皆さま、こんにちは。市長の榊原康正でございます。今日は、佐久島で市政懇談会を開催させていただきましたところ、ご出席をいただきありがとうございます。

佐久島は非常に多くの幅広い年代の方に来ていただいております。日本の原風景がこの島にはあり、訪れるとほっとするような印象を受けます。私も年に1日か2日この島を散策することを楽しみにしています。これも島の皆さま方が昔の生活を維持していただいているおかげかと思っております。おそらく日本の国内では日々の原風景を感じることのできる島は他にはないと思っております。

島では全国で初めての試みであります「佐久島ラインガルテン」という宿泊滞在型農業体験施設があります。平成24年4月に開園をして、約1年半が経過しましたが、今も大変な人気で、これも島民の皆さま方と交流を深めていただけていることが、大きな人気の要素の一つであると思っております。これからも交流を深めていただきたいと思います。

また、今年3月には、新造船の第三さちかぜが就航しましたが、バリアフリー化し、車いすでそのまま乗り込めますし、スピードも随分と速くなり、船の外観の絵の模様も随分と変わったすばらしい船ができて、おかげ様で4月から7月の乗船客数が過去最高を記録しております。これからも快適で安全な運航を提供してまいります。

この佐久島地区は十数年の間、アートによる島の活性化に努めていただいております。最近では、アートの島としてマスコミ等に取り上げられ、若者を中心に多くの客が訪れるようになりました。今後も引き続きPRに努めてまいります。

また、島を美しくする会の皆さまには、佐久島の活性化のため、日々島おこしの活動にご尽力をいただきましてありがとうございます。地道な努力が身を結び、国土交通省や愛知県の「地域づくり表彰」を受賞されたことは誠に喜ばしいことでもあります。今後も引き続き島の活性化を目指してご尽力いただくことをお願い申し上げます。

本日の懇談会におきまして、いろいろなご意見やご要望をお聞かせいただくわけですが、昨年度から市の職員が市民の皆さまの所に直接赴き情報交換を行います「市民協働ガイド」

という制度を発足しています。10人くらいの方がお集まりいただいて、「市の話も聞かせてほしい」とか皆さま方のご意見がございましたら、ご遠慮なく声をかけていただければ、職員がまいります。

本年度は西尾市制60周年という記念すべき年であると同時に、合併後3年目を迎えることとなりました。私は市政運営の理念といたしまして昨年度と同様に「融和」と「協働」を掲げております。「融和」と申しますのは、新しい西尾市で市民の皆さまそれぞれが仲良くしていただきたいということです。「協働」と申しますのは、今、いろいろな要望が市にあがってきておりますが、市の中ですべてができるという時代ではありませんので、「地域の皆さま方にご協力をいただきながら共に手を携えて良いまちをつくりあげていこう」ということでお願いしております。どうかこれからも皆さまと協働で、新しい西尾市を全国どこにも負けないような暮らしやすい、暮らしていて幸せだなと感じる地域にしてみたいと思います。

今日は、いろいろなご意見をお聞かせいただきたいと思います。

【代表町内会長あいさつ】

皆さま、こんにちは。佐久島の代表町内会長の藤井です。本日は、市長始め市役所の方には懇談会の機会を設けていただきまして、誠にありがとうございます。

佐久島は合併して西尾市になり、約2年半がたちます。今日まで、「自然あふれるアートの島」として観光面などに力を入れていただき、おかげさまでテレビ等に放映され、年々観光客が増えてまいりました。

しかし、島民の生活に目を向けますと、高齢化が急速に進み、医療体制の面など心配な点が多くあります。

島から市役所へは遠く、普段、私たち島民の声を直接届けることは難しいですが、本日は、市長始め市役所の幹部の方に直接、声が届けられる絶好の機会であります。皆さまには、積極的にご発言いただき、佐久島が住み良くなるための充実した懇談会にしたいと思いますのでよろしく申し上げます。

【意見・要望と回答】

1 佐久島観光協会会長

① 海水浴場の浮き棧橋（飛び込み台）の予算

平成8年に大浦海水浴場を整備していただいた時よりありました浮き棧橋が老朽化で耐久性がなくなって昨年と今年と2年ないわけですが、お客さんから「楽しみが減ってしまって残念」だとか「来年はありますか。子供が毎年楽しみに来ているから」という意見をよく聞きます。佐久島は海がきれい、他の海水浴場よりもすいているという意見等々ありますが、来年はぜひ、浮き棧橋を復活してほしいと思います。

② 海水浴シーズンの消防の警備日数を増やしてほしい

シーズン中は、特に7月の後半から8月の盆すぎまでの間は来島者が多く、けが人などが出て診療所へ搬送しなければならない時は、迅速に搬送できるよう消防署員の方々の警備日数を今の土日に限らず、平日も増やしていただきたい。協会の方も安全管理体制緊急連絡網があるんですけども、なかなかどうしても出遅れてしまって、後から結果を聞くというのが現状です。今年は何がで3件診療所へ行かれた方がありましたが、1件は駐在の稲葉さん、1件は消防の方、1件はお連れの方が運んでいただいたことを聞いております。

①地域振興部長／海水浴場の飛び込み台については、平成8年のオープンから平成23年まで、多くの海水浴客に楽しんでいただきましたが、長年の使用によりまして劣化でひび割れが生じました。利用者がけがをする事案が発生するようになりましたので、設置を取り止めたところであります。

しかしながら、設置を取り止めた平成24年の海開き当初から、飛び込み台の復活を望む利用者のご意見を多く聞いておりますので、設置に向けて前向きに検討してまいりたいと考えております。

②消防長／本年度の海水浴場の警備につきましては、7月の第2土曜日の7月13日から8月の第3日曜日の8月18日までの13日間、佐久島振興課からの依頼により救急救命士を含む職員2名を派遣しているところでございます。

警備日数を増やしてほしいという要望につきましては、前向きに検討してまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

2 島を美しくつくる会会長

○ 佐久島の活性化と現代アート事業に関わる予算の継続を

10数年前から島の過疎化が激しく、行政と相談した結果、事業を起こして活性化をしようということで、現代アートを取り入れ、かなりの予算をいただき、毎年毎年少しずつアートをつくってきたんですけども、数年前からようやく実って交流人口も急に増えてきて、今ではキャパ（キャパシティー＝受容力）の問題が。新しく船も造ってもらったんですけども、それでも一色港で2時間待ち、佐久へ来たら何かおいしいものでも食べようと食堂へ入ったら2時間待ち、早く帰らないと船がなくなっちゃうと思って港へ行ったら2時間待ち、最盛期にそれがたび重なり「あんな不便な所は二度と行きたくない。」と言われかねない。交流人口は去年辺りの17万人がいいところで、これからは維持するのが大変かなと思います。17万人が20万人を超えるとキャパがなくなります。アートの作品のメンテナンスにもお金がかかります。

中長期（5年）スパンで予算面の支援を考えていただきたい。

市長／アートを基軸とした島おこしを、島民の皆様が主体となって継続的に取り組んでいることが、マスコミ等に取り上げられ、佐久島の認知度が上がり、交流人口が増加していることは、西尾市といたしましても、大変有り難いことであります。それと同時に西尾市にとって佐久島は重要な観光資源であると考えております。

中長期スパンで予算面の配慮を、とのことでありますが、西尾市の財政状況や、他の事業との兼ね合い等がありますので、確約はできませんが、引き続き予算の確保に努めてまいります。

なお、地域の活性化は予算も必要であります。マンパワー、人の力が最も重要であると考えていますので今後ともご理解とご協力をよろしくお願いします。

今の2時間待ちというのは大変な状況でありますので、もう少し何とか交流がスムーズにできるように考えてまいります。

島を美しくつくる会会長／人口260人ぐらいの所に1,300人の方が一遍に入ります。

市長／うれしい悲鳴。嫌な所だと来てくれといっても来ていただけませんので。

島を美しくつくる会会長／年間通して上手にお客があるならいいですが、差がひどい。船にしても一緒。ゴールデンウィークから夏の土日の多さに比べて冬は少ない。

市長／冬の魅力もつくったらいいと思います。

島を美しくつくる会会長／雪景色もいいと思いますが、雪が降りません。

3 一色消防団佐久島分団長

○ 佐久島分団の要望

島の消防団は現在、40名で構成しておりますが、島の住民と同じように高齢化が進んでおり、65歳が一番年上です。火災があった場合は、消防団しかないものですから、皆各自、仕事を持っていて、なかなか早急に有事の際に対応するのが難しいところがあります。まず火事は、初期消火が大事です。

① 最近水道の本管の工事に伴って立ち上げ式の消火栓をたくさん設置していただいておりますが、旧本管のところは、全部道路のふた式の消火栓になっています。先月、東町内会の方^{かた}に消火栓を使った放水訓練をやっていただいたんですが、ふたを開けてホースを設置するまでが、ふたが重く、足の上に落としてはいけないし、水を出すよりまず、ふたを開けるのが大変です。今の立ち上げ式に変えてほしい。

② 島の東ですけど、海水浴場の東側に防火水槽が一カ所ありまして、それから海岸ですが、大島へ行く所に消火栓が1個あります。その間が消火栓をとる場所がないですから、その中間点辺りに1、2カ所消火栓を設置してほしい。

③ 団員が高齢化しておりますので機械器具の点検など大変になっております。常備消防があれば、若い団員だけでも運営できるんですが、できれば消防職員の方または消防職員OBの方に日勤でいいですから1年ないし2年来ていただいて、機械器具の点検等もやっていただきたいと思います。

消防長／①まず始めに、消火栓のふた式から立上げ式への変更ですが、佐久島で火災が発生した場合、高齢化傾向にある消防団員とともに、皆様総出で活動いただいている現状から、消火栓

の立上げ式は有効であると考えております。また、消火栓の蓋の軽量化などにつきましても、負担の軽減の一つと考え、合わせて調査研究してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

②続きまして2件目ですが、海水浴場までの浜通り、すず屋さんから海水浴場東側防火水槽までの海岸道路には、水道管が敷設されていませんので消火栓を設置することはできませんが、付近の水利状況を勘案し、他の場所を検討してまいりますのでよろしくお願いいたします。

③続きまして3件目ですが、日勤で消防職員（又は職員OB）1名の常駐をとの要望ですが、佐久島分団の皆様におかれましては、自分たちの島は自分たちで守るという崇高な使命感のもと、島の消防・防災活動に取り組んでいただきありがとうございます。

ご要望いただきました職員の派遣につきましては、前向きに検討してまいりますのでよろしくお願いいたします。

4 民生児童委員

○ 佐久島に於ける救急搬送体制の更なる確立を切望する

現在、佐久島での救急の搬送手段は、重篤患者の場合はドクターヘリで、その他の救急搬送は、その大半を自島の海上タクシーである「さざなみ」に委ねる形になっている。十数年前より現在に至るまで、その体制で対応してきた搬送だが、今後に向けて不安材料が目前に迫って来ている。海上タクシー「さざなみ」の船長曰く、「今の船が大きな故障等により、多大な出費を余儀なくされてまでタクシーを継続するのは難しい」とのことである。ごく最近のことではなく、数年前より救急搬送に関しては様々な検討の場を設けてきてはいるものの、ドクターヘリ以外の搬送手段に関してはコレと言って明確な結論は出ず、結果、「さざなみ」におんぶに抱っここの状態が続いています。

島側の意見として「定期船を救急の際に走らせることが出来ないか」という案があります。

年間を通して見た場合、2隻の定期船が走りっぱなしになる状況の頻度は少ないため、基本的に1隻は空いているという考えからの意見です。この考え方により、定期船の起点港を一色港にする事に対し反対意見が多かったわけです。

そして、この場面での行政側の回答は、

- ① 定期船の船員の大半が本土側在住である為、起点港が島では、宿泊施設の改善等の検討が必要になる。
- ② 船員とて一公務員であり、夜間の救急対応を考慮すれば晩酌すら出来ない状況になる。
- ③ タクシー以外でも漁船等の民間船を利用できないか。
- ④ 日間賀島・篠島には多くの海上タクシーがあり、そちらから救急で回航してもさほど時間はかからないのではないかと。等の意見でした。

島側としての検証は、

- ① 基本的に1隻は島に係留する事とし、混雑が予想される場合のみ、2隻とも一色に向かわせる。

臨時船が済み次第、再び1隻は島側に係留する。

こういう方法を勤務スケジュールのやりくりを検討し、何とか可能にできないものか。

② コレも検討次第で解決策が見いだせるのではなからうか。

船員に相応の手当てを出す。もしくは海上タクシーを廃業された船長及びその他船舶職員等有資格者（操船訓練と慣れは必要かもしれませんが、小型船舶である定期船は操船可能です。）それに、救急時のみの操船技術者として委嘱等、人事面で解決の糸口を見出す事は出来ないものか。

③④ 漁船も、非常の場合の最後の手段という選択肢としては考えたいが、個人の船舶と、客船としての検査・整備を施した船舶では、その信頼性に大きな違いがある。命がかかっている救急時に島民が安心して委ねられる事、そしてその安心感を礎に日々を暮らせる事こそが大義であり、「いざという時に、ちゃんと運んでもらえるのだろうか」こんな不安な気持ちで過ごさせる事は行政の対応としてはやはり御法度ではないでしょうか。日間賀島・篠島からの回航も、一昨年～昨年の幾度かの検討の場面で、検討課題として上がっていたが、行政側の考える回航時間は正味の航海時間プラス α の僅かな時間を考えておられるようで、現実はその甘くないものではないというのが島側の意見・・・。

更に付け加えるならば、自島での救急と他島の其れとでは、人間である以上やはり多かれ少なかれ使命感の違いが生じるのは致し方の無い事であろうし、島民もまた、それらの事が分かっているからこそ、安心して暮らせる救急の態勢を望まれるのだらうと考えます。

「いつでも、どんなに些細な事で呼んで頂いても構わない」とドクターヘリの説明会の場でヘリの担当者は答弁をされていました。しかし、そんなわがままが無理な事は全島民が分かっています。それでも安心して暮らせるためには、やはり信頼できる船による搬送を確立しなければならないと思います。

また、本年度からは診療所の医師が若い女性医師となり、やむを得ず夜間は無医村の状況となりました。これは今年1年間だとは思いますが。当然、ドクターヘリは夜間の飛行は出来ず、防災ヘリの要請という事態になります。

ところが、防災ヘリに関しては、夜間対応の離着陸の場が未だ確定しておらず、この問題も救急搬送に関連した案件として早急な検討をお願いしなければなりません。

以上これまで、経緯等を述べましたが、それらを考慮しつつ、可能な限りの最善策を早急に確定して頂くことを、町内会・民生委員、そして全島民の総意としてお願いしたい。

また、市でいうならば、過疎の問題や高齢化の問題は、これから先、医療の問題ともすべて絡んで島としては切実な問題になっていくと思います。方法論としては、多岐にわたると思いますのでよろしくお願いします。

消防長／高齢化が進む佐久島の皆さまにおかれましては、救急搬送につきまして、大きな不安を抱えておられることと思います。現在は、佐久島の方々と市関係部局の協議により、暫定案ではございますが、傷病者の緊急対応について提示させていただき運用しているところでございます。

皆さま方からは、消防職員の常駐、渡船の利用などの要望をいただいている中で、前向きに検討し、新たな救急搬送の仕組みを確立させていただきますのでよろしくお願いします。

また、ヘリコプターによる夜間の救急搬送につきましては、場所の選定、財政面、法的問題など難しい課題もありますが、引続き調査研究してまいりますのでよろしくお願いします。

民生児童委員／意見を述べました救急搬送に関しまして今後も検討の場を設けていただきたい。これを実際、机上議論に終わることなく、島の各種団体、すべての方を巻き込んだ形で検討していただいて場所の選定、船の手配、どういう形でやっていくのか、その辺も踏まえて大きく捉えて何度も何度も検討を重ねていただきたいと思います。

5 佐久島東町内会長

○ 緊急搬送に渡船を活用出来るようにしてほしい

(島民が安心して日常生活が送れるために)

今回の懇談会にあたって我々島民が一番頭を悩ませていることが、緊急体制をどう確立していくか。民生児童委員さんから話があったようにさざなみさんだけじゃ心配でしょうがない。今回は一つ島民挙げて我々町内会として一点に絞って要望を出そうということで今回ぜひ、進捗状況など具体的に回答をいただきたい。

地域振興部長／人命優先の立場から、市営の渡船も緊急搬送方法の選択肢の一つとして、対応してまいりたいと考えております。

具体的にまだ、いつからどういうふうにするかというところまでの回答ができませんのでよろしくお願いします。

佐久島東町内会長／回答ができないというのではなく、我々も何年も前から要望を出して、今回の懇談会では、具体的に「渡船の利用が可能ですから安心してください。」とそこまで言われているんですよ。それがまだ、「これから検討する」というような回答じゃ納得できない。健康課、あるいは消防がいろいろと絡んでいるわけですから縦割りではなく、横のつながりで当然私らはできると捉えておりました。検討では駄目ですよ。最初から聞いてますと「前向きに検討する」とか回答が出ていましたが、これだけの要望を前もって出して、すぐに結論が出ないでしょうけれども緊急搬送に関しては、3年も4年も前からお願いしています。それが何にも具体的に回答できないというのは、どういうことなんですか。

福祉部長／海上タクシーにつきましてはでありますけど、現時点でさざなみさん1件にお願いしていますが、実はうちの方から篠島と日間賀島の海上タクシーの方に話をさせていただきまして、連絡した場合にこちらに来てもらえるという了解を得ているわけなんですけど、金銭的、その他で実際契約はしてないものですから早急にするように話をすすめています。海上タクシーにつきましては、さざなみさん1件ということでしたので篠島、日間賀島の方に5業者ありますが、1件については、了解していただいていますので夜、緊急の時に連絡したら来てくれるようになります。

佐久島振興課長／ご意見の渡船の運行については、おとといみえた時に「やっていきますよ。」と言いました。確か前回の渡船運営委員会の時に「起点港を佐久から一色に持ってきますよ。その時に救急搬送の要望があれば渡船で運びます。」とそういう条件で起点港を持ってきた経緯がありますので必ず行きます。ご安心を。

佐久島東町内会長／それでいいんですね。渡船がいつでも対応できますと。

佐久島振興課長／選択肢の1つとして。海上タクシーができなければやります。

福祉部長／島民の皆さんには、怪我人や急病人が発生した場合の対応方法について消防からチラシが配られていると思いますが、まず119番に電話して、順番に進んでいく中で、島外へ搬送となった場合にさぎなみさんになるのか、日間賀の海上タクシーになるのか、渡船になるのか、その時に行ける船で対応します。

佐久島東町内会長／対応が多ければ、多いほど我々は安心できる。渡船が最後の砦として「運びましょう」と言っていただけて安心しました。防災ヘリも一つとして捉えてもらいたい。そして海上タクシーを新規にやりたいという場合、補助は出してもらえますか。

福祉部長／そういう方がもしみえるのであれば検討させていただきます。補助の確約はできませんが。

民生児童委員／回答者の皆さんは当然島民ではないわけで、島に暮らしている人間でないとおそらくわからないと思います。日間賀から海上タクシーで向かう。一色から渡船を走らす。走らす時点で救急だったら終わっています。さぎなみさんが家から出る。エンジンをかける。走り出すその時間が最低限の状況だということを考えていただきたい。心臓、脳の救急なら間違いなく死になさいと宣告されているようなもの。その昔、島に救急艇というものがあって、渡船のリタイアされた船長さんが救急艇の船長になって待機した時代がありましたが、それが本来のはずなんです。いかに迅速に運べるかが救急の対応です。

佐久島東町内会長／進め方として一度シミュレーションをやっていただきたい。

地域振興部長／一度シミュレーションを考えてみたいと思います。

6 東婦人会会長

① 渡船の定期をつくってほしい

佐久島の島民が島外へパート、アルバイトなど仕事に行けるように渡船の定期を安くつくってほしい。保育園が復活し、若い人が住むようになりました。

② 通院の渡船代を補助してほしい

島民が診療所で診てもらえない歯とか目の診察などで島外へ通院する場合、全員渡船代が半額位にならないものでしょうか。

③ 海水浴場の砂が道路まで飛んでこないようにして下さい

海水浴場の砂は、粒子が細かく、全部道路の方に舞ってきます。通ると砂が目に入ってきます。砂を重くしてほしい。濡れていれば舞ってきません。ネットでは駄目です。ブルーシートを張るとか良い案はないでしょうか。

地域振興部長／①渡船定期券については、現在考えてはおりませんが、今後皆様のご要望に少しでも沿えるように、島民券の運賃を検討してまいります。

②現在、渡船料の島民割引については、筒井さんご存知のとおり、年齢などに関係なく往復旅客運賃の復路を35%引きとしています。(往路800円、復路520円)

また、通院のための渡船料補助については、後期高齢者医療となる75歳以上の方について70%の通院助成を行っており、自己負担は1度の通院で400円となる制度があります。他にも、障害者医療、母子家庭医療、精神障害者医療、子ども医療も対象となっております。

しかし、これ以外の方の通院補助については、現在考えておりませんが、今後、離島の交通事情も考慮するとともに、他の公共交通空白地域との均衡を図る必要がありますので、地域公共交通計画の策定の中で意見を述べてまいります。

③海水浴場の砂の飛散については、平成8年のオープン以来から、様々な対策を検討してきていると聞いています。

現在では、キョウチクトウの植栽ですとか、西風の強まる冬場の防砂ネットの敷設を行っておりますが、完全に飛散を防止するに至っておりません。

抜本的に解決するには、今の粒子の細かい砂から、粒子の粗い砂に入れ替える方法がありますが、たくさんの費用がかかります。

現行の予算規模でどういう形で砂を飛ばさない工夫ができるか、以前から検討しております。現在、問題の解決に至っておりませんので、継続して検討しますが、皆様にも是非知恵を拝借して解決の方法を探っていきたいと思っております。

東婦人会会長／平成8年からずっと防砂ネットを張ってもらっていますが、同じところに同じようにやっています。検討している割には何も変化がございません。

民生児童委員／今の砂の問題ですけど、行政側は今の海水浴場の海の一番沖の堤防側の深い部分の海の深さ、それから水際から砂の色がずっと干上がり区分ができますよね。灼熱地獄で遊ぶことができない砂浜がたくさんあるわけですが。その砂浜の高さと相殺した場合にあの上の砂を全部下へ降ろして、降ろす作業だけです、砂を入れる予算をかけるのではなく、沖へ押し流した場合にどういう水際のどういう状態の砂浜になるかということを考えてみられたことはありますか。もしそれが可能であれば、そんなに背の立たない深さの海水浴場って必要ないんですよ。深さのある海そのものが。それで何とか対応できるものならば、段々から下を全部下へ降ろしてしまって、大潮の満潮になった時に段々に水が来る設定にすれば絶対に砂は飛びませんよ。常に塩気を含むから。

東婦人会会長／最初そうになっていたんですかね。

民生児童委員／いや、始めでも、まだつからない部分があった。これは元をただすと、海水浴場をつくる時に島側の要望として、砂浜の遊べるビーチの部分もほしいという要望をした経緯もある。ビーチの部分は広いことになっている。

結果として予算的にどういうやりとりがあったか知りませんが、非常にものの良いサラサラの砂が入ってしまって、その砂のおかげで飛ぶ状況が出来上がった。今どうするかといったら、降ろす作業が最善ではないかと思っております。

地域振興部長／非常に良いご意見をいただきました。構造的な改修を実際にやれるかどうか一度検討してみたいと思っております。

東婦人会会長／台風が来る前をお願いします。

佐久島観光協会会長／砂が飛ぶということで、一度沖へ出して、大潮で濡れるようにしましたよね。1mくらい下げて。風とか潮の流れで元に戻ってしまってまた、飛ぶようになった。

民生児童委員／ネットを張る予算+αでそれができるのであれば、毎年予算をかけてネットを張って片付けるわけですから、それに合った手段として押して下げる、スプリンクラーを回して海水を砂浜にかけるとか、いとも簡単にやれそうなことだと思います。電気代はかかると思っております。

地域振興部長／スプリンクラーで砂に海水をかけるのは、四六時中はなかなか大変だと思います。

佐久島分団長／四六時中でなく、大潮の干上がる時間帯とか、風速計があるので、風向きや風速によってスプリンクラーが回るようにすれば大変ではない。常時水をかける必要はない。

地域振興部長／今の細かい砂を海側へ戻していく方法などを一度考えたいと思っております。

佐久島観光協会会長／日間賀の海水浴場はブルーシートをやっている。

佐久島振興課長／地元の観光協会と島民の方全員が出てやっている。

地域振興部長／お手伝いいただけるなら。

佐久島観光協会会長／日間賀は面積が狭い。ここは広い。予算もかかると思います。

【自由意見】

I 市民 I (佐久島中学校区) ← () 書きはお住まいの中学校区

○ 消火栓のふたが重いので立ち上げ式にしてほしい (No. 3 と関連)

先ほど消火栓のふたを軽量化してもらえると聞きましたが、どこかでやっていますか。

消防長／それができるかどうか確認してみたいということです。軽量化できれば。

市民 I / ふたが重いんです。訓練に島の奥さまを集めて、消火栓の接続から放水まで皆さんにやっていたいていますが、ふたを開けるのが大変です。男衆は昼間いないもので。立ち上げ式にしてもらえるとありがたい。

II 市民 I

○ 島外に住む子や孫の渡船代を割引してほしい

渡船の運賃の話になりますが、佐久島の中でも西尾市(島外)に住んでいる子供や孫がいる。子供や孫が毎週末、島に来てもらえれば、消防活動や島の行事、祭に積極的に参加できるような体制ができる。どうしてもネックになるのが渡船代。私が計算したら親子4人で、毎週島に来てもらうと月19,200円かかります。それを相当割り引いてもらえれば、もっと島に帰って来てくれる。

地域振興部長／渡船代は島民の方を対象に料金の見直しを考えています。一色からここまで13kmぐらいありますか。公共交通機関に乗った場合と同程度に考えています。島民以外の方は対象になりません。

市民 I / 原則そうでしょうけど、柔軟に予算を使えないか。活性化のために。

地域振興部長／(島民の往復渡船代)1,320円をもう少し下げていくということです。

市民 I / これから検討願います。

佐久島振興課長／我々が三河一色から市民病院まで公共交通を利用すれば、同じように払います。

III 市民 I

○ 市政懇談会の開催は1年おきですか

この懇談会は1年おきにやることになっていますか。

企画部長／これまでは1年おきですが、決まったことではありません。毎年開いてという声が多ければ市の方も考えます。

市民 I / 担当部長に折衝してもなかなか良い返事がいただけません。市長に直接言いたい。

【市長 閉会のあいさつ】

長時間にわたりいろいろなご意見をいただきました。消火栓の問題とか救急搬送の問題、あるいは海水浴場の砂が飛んで困るという問題。日々皆さまが大変お困りのことを承知いたしました。砂の問題をお聞きしておりますと海水浴場を良くしようと、きめの細かい砂を入れて結果的には、冬場には大変だということで、難しいなと思いましたが。海水浴客は砂がさらさらして喜んでおみえになるとは思いますがどうでしょうか。

東婦人会会長／すごく潮が引いている時は砂浜が長くなって砂が熱いため、足が熱くなり、小さいお子さんは抱かれるようになります。

いろいろな面で大変な状況がわかりましたので、対策を考えてまいりたいと思います。国でもいろいろな問題が起きていますが、少子高齢化が急速にやっけてまいります。今から27年後の2040年は、先日の厚生労働省の発表によりますとすべての都道府県で人口が減少し、高齢化が急激に進みます。景気は先を読むのが非常に難しいですが、これは間違いなくやってきます。西尾市も人口17万人が2万人程減少する見込みです。一番問題なのは、人口が減ることです。動物にしても植物にしても生きものの一番の本能は自分の子孫をたくさん残すこと。残念ながら日本の若者たちは、その本能さえも失いかけている。子供を育てるということに魅力がなくなってきている。借金も増えていって。我々がやっていることは後世につけを回している。消費税の問題も盛んに言われていますが、計画どおり上がっていきます。我々の時代にやれることはしっかりやっけて若者が夢と希望を持てる世の中にしたい。

佐久島の皆さまが、人口が減って高齢者が増えても元気にやっけていっているという気概を若者に示していただければ、活気もわいてきます。日本の残された古里、原点がここにはたくさんあります。これからの日本に、島の皆さまの生活も素晴らしい見本になることをお示しいただきたい。市としてもできることは早急に解決し、皆さまにご不自由をかけないようにしたい。このような懇談会もありますが、市民協働ガイドの制度もご利用いただきたい。ご意見があれば、担当部署が責任を持って対応します。

皆さま、これから冬がやっけてまいりますがご健勝にお暮らしく下さい。貴重なご意見をありがとうございました。